

の順番がよくわからなくなる事もしばしばあります。ようやく自分の番となったら、晴れて医者がある部屋をノックする事が出来ます。

しかし、医者は待っている人がいる、いないにかかわらず、仕事を中断したり、昼食に出かけたり、仕事を切り上げてしまったりする為、患者側が歯がゆい思いをする事態が頻発します。実際、私もこの健康診断の一日目（そうです、こんな状況なので検査項目は少なくとも、一日では終わりません）に“被害”を受けました。「今日はおしまい。私はもう帰るから、他の人達は明日以降来て下さい。」医者は列に並んでいる患者達に、平然とそう言っただけでした。列を成していたロシア人達は不満そうな顔はするものの、パラパラと散っていきます。私がそれを見ていると、その医者もそそくさと診察室に鍵をかけ、帰宅してしまいました。

利用者側に明らかに不満が募っているのにもかかわらず、ソ連崩壊から約20年経った今でも尚このシステムが健在である事が、私には非常に興味深く感じられます。

2、ダーチャ滞在 ～ロシア人の生活の一部～

ダーチャとは家族等で週末を過ごす別荘の事で、広い土地があるロシア（及び旧ソ連圏）に特徴的ともいえるものです。その始まりは、サンクトペテルブルクを設立したピョートル一世の時代といわれています。大小、質の善し悪しに差はありますが、ほとんどのロシア人家族がこのダーチャを郊外に持っています。ダーチャの畑で農作物を育てる事は一般的で、ロシアが経済危機に陥った際、このダーチャがあるお陰で食糧難から逃れられたという説もあります。そんなロシア人と切っても切れない日常の一部であるダーチャに滞在してきました。

市内中心部から車で40分。それまでダーチャはどれも都市から辺境のど田舎にあるものと想像していましたが、実は市街地郊外に立地している事が一般的だそうです。週末気軽に行ける様に、ロシア人は家からあまり遠くない所を選ぶ為です。

もっと質素なものを想像していたダーチャの造りでしたが、普通の家といっても良いくらい、綺麗で頑丈な二階建てでした。驚いたことに、（少なくともその地域では）ダーチャはすべて見様見真似で家主自らが建てるらしく、招待してくれた家主も、それまで家の建築経験が無い中、一からその家を作り上げたのです。何でも自分でやってしまうこのワイルドさも、ロシア人らしいところといえます。

服部 祐也（はっとり ゆうや）

ロシア連邦・サンクトペテルスブルグ国立大学留学中

2003年4月早稲田大学政治経済学部入学。2005年9月～2006年6月アメリカ合衆国 California Polytechnic State University San Luis Obispo 留学。2007年9月早稲田大学政治経済学部卒業。2008年4月より総合商社勤務。現在、ロシア語研修生としてサンクトペテルブルグ国立大学に留学中。



参加者はロシア人10人に私という、ロシア人の生活を垣間見る上でとても恵まれた環境でした。到着後、男性陣は外で肉を焼き（ダーチャの目玉はバーベキューです）、女性陣は家でジャガイモのグリルやサラダを作りました。その後、庭にテーブルをセットし、準備開始から約一時間後、食事開始。コンボートという梅や木イチゴのジュースを飲みながら、バーベキューを十分に堪能しました。その後室内に移動し、ロシア人の好きな議論の時間が始まりました。学校の先生の話題等身近なものから、ウクライナが公共放送にロシア語を導入した話（5月1日～。親ロシア・ヤヌコーヴィッチ大統領当選を受けて）やトヨタのリコール問題の話等政治経済の話題まで、様々なテーマで盛り上がっていました（残念ながら私が理解出来たのは20%程度でしたが）。数時間という議論の後、帰る時間になると「日本に関するロシア語DVDを貸してやる」、「一人暮らしだから残った食べ物を持って行け」等ロシア人持ち前の面倒見の良さが遺憾無く発揮され、帰路につく私の両手はお土産で塞がれました。

つい先日ともダーチャで同様に休日を過ごしましたが、こういったロシア人の何気無い日常を経験出来る事は、私にとってこの上ない幸せです。

3、終わりに

18ヶ月間の語学研修の内、半分の9カ月が経過しました。この研修の主目的の一つであるロシア語の上達についてはまずまずで、先日ロシア連邦教育科学省認定ロシア語検定試験の第一レベル（ロシアの大学条件付き入学レベル）を取得しました。今後、社会問題やビジネス用語等により力を入れていく予定です。

当初は驚きとストレスの連続であった当地での生活も、最近は驚く事があまり無くなってきました。また、日々の会話や日記等に意識せず「ロシアらしい」「ロシア人らしい」と表現する事が増えてきました。上の様なロシア・ロシア人の日常生活の経験の一つ一つは小さな事かもしれませんが、しかし、それを実際に当地で積み重ねていった結果、ロシアやロシア人の特徴を体得し始めているのだと思います。

日常生活の「常識」が積み積って人間を形成していきます。従って、この様に引続きなるべく多くのロシア人の日常生活に突き刺さる事により、ロシアやロシア人というものを少しでも理解し、ひいては最終目標であるロシアでのビジネスの開拓及び拡大に繋げていきたいと思っています。

（尚、本記事の見解は筆者が勤務する企業の見解とは一切関係無く、私個人の考えを述べたものである事を念の為に申し添えておきます。服部）



語学研修留学も9ヶ月経ってロシア語が上達したのでしょう。服部くん、活動範囲を広げ現地の人達との交流を始めました。

「ダーチャ」滞在に招待されて、ロシアの人達や生活習慣をより身近に見聞することになります。その体験からより多くの留学の収穫を得ることが出来ます。チャレンジ精神を秘めた服部くんの、積極的な活動の始まりです。今後の報告が楽しみです。